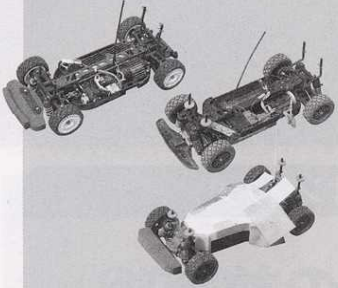


ダートを走り続けた タフなマシンたち

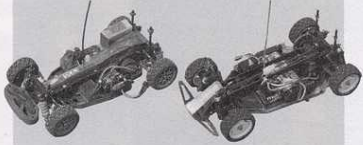
信頼性の高いシャフトドライブ

駆動系の防塵性が高く、もともとオフロード走行に適した設計といえるシャフトドライブマシン。今大会ではTT-01やTB-01、そしてTA-02という懐かしのマシンまでタミヤの新旧の名車が参戦した。防塵対策への力の入れようは、チームによって大きく異なった。



整備性の高いベルトマシン

長いベルトゆえにオフロード走行を本来は得意としないが、ケースを自作するなど各チームとも創意工夫でベルト周りをカバーし、強靱なラリーマシンに仕上げている。なんと今回は3台ものTA-04ベースのマシンが参戦し、オンロードと変わらぬ人気を見せつけた。



燃費で勝負のFFマシン

最低重量が4WDマシンに比べ100g軽く規定されている2WDマシン。そのメリットを活かすべく、あえてFFシャーシを選ぶチームもあった。絶対的なグリップこそ劣るはずだが、コース上では終始4WDマシンにひけをとらない走りを見せつけ、ギャラリーの注目を集めていた。



実車もかくやの犬迫力！しかし、ロードクリアランスが限られたラリーカーにとってジャンプは難所だ。



12/15分の間隔で行われたバリエーション交換と同時にリアプロペラを交換する様子。



FFで挑んだリアル・ドール。シャーシ交換を乗り越えて健闘。



起伏に富んだコースだが、操縦台からの視界は良好で思い切りドライブできる。



みな思い入れのあるマシンで参戦。昼休み中はマシンの「点検」が熱くなった。

RC WORLDも参戦



マシンの信頼性の低さが目を覆うばかりで、前代未聞の7回ものモーター交換に襲われる結末。助っ人の中島さん、佐野さん、ごめんなさい……。

RESULT



1st チームマッド 971周 2nd ワンダフルママ 942周 3rd ミスファイヤー 936周
4th RCM withのうんてき/5th 重業俱樂部/6th リアル・ドール/7th TMC with 中嶋企画/8th RCワールド/9th オートクタナカ/10th AM Racing



第8回りんごじゃむサーキットR/C5時間耐久ダート大会

on 2004.7.18 at 長野県・ペンションりんごじゃむフラットダートサーキット 取材協力/ペンションりんごじゃむ phone/0269-64-3558 photo/N.suzuki 鈴木信行

フラットダートで接近バトル！ 笑顔で楽しめる年に一度の耐久レース



ツーリングカーがベースのラリーマシンにとって、少々手強い大きなジャンプ台が設けられた。真っ直ぐ進入しないと、即転倒だった。



いずれも優れた精鋭なスタリングのラリーマシンが10台参戦。それぞれ4名ないし5名のドライバーとスタッフが、5時間後のゴールを目指した。



本レースはもちろん、バギーや軽トラのレースもあつた。ペンションりんごじゃむのイベントも盛りだくさん。

モーター、タイヤ、最低重量を指定されたRCマシンは、ドライバーも乗客も楽しめる。車検も入念に実施された。

夏恒例イベントとして定着した5時間耐久ダート大会が、今年も長野県の斑尾高原にあるペンション「りんごじゃむ」で開催された。ラリーカーの迫力と楽しさ、イルミネーションの走りを楽しんでほしい。大会当日は、前日までの大雨がコンディションを悪くした。しかし、そこは斑尾高原というロケーション、都会の蒸し暑さとは無縁の清々しい空気の中でレースを楽しむのが魅力。参加した10チーム、総勢45名のラリーファンが5時間という長場のレースに挑んだ。

9時半のスタート、まず好調ぶりをアピールしたのは地元勢の雄、チームワンダフルママ。安定したタイムミスを重ねていく。とはいえ、数周の差はまったく勝負の行方が分らないのが耐久レース。いかにトラブルを起さないかがカギを握る。コースに設けられたビッグジャンプを思いっきり飛ばすも、サイドの細道を慎重に走り抜けるかも、ドライバーの戦略次第だ。

そんな中、開始15分という段階でトラブルを起したのが、ほかからぬチームRCワールド。あまりにも高いギャラリと異物侵入のダブルダメージでモーター交換。5分間のダウンを強いられる。しかも、早くも上位争いの夢は絶たれたかと思われたが「事実、そのとおりだったが……」。その頃から次々と各マシンがピットイン。やはり耐久レースらしい不確定要素が絡み、ギャラリーにとってコース上だけでなくピットでの戦いも大きな見どころになった。

お昼休みを挟み、後半戦はコースを逆回りしてスタート。ジャンプは取り除かれたが、ストレートが下り坂になるためオーバースピードでコース外に転落するマシンが続出し、いつそう微妙なドライビングテクニックが要求された。そんななか、次々にジワジワと差をつけたトップの座を確かにしていったのは、こちらも地元勢のチームマッド。大きなトラブルを1回だけにどめ、着実に周回を重ねてトップゴールを決めた。

レース後は、地元産のワインや定評ある「りんごじゃむ」が用意された表彰式が行われ、アットホームな雰囲気イベントを締めくくった。気軽に、和やかに、それでいて真剣にラリーレーシングが楽しめる内容であり、来年の開催が早くも待ち遠しい好イベントだった。